

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100576		
法人名	医療法人 アイリス朝陽会		
事業所名	グループホーム アイリス		
所在地	宮崎県宮崎市吉村町大町甲1919-6		
自己評価作成日	平成26年6月18日	評価結果市町村受理日	平成26年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年7月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の1階がクリニックですので、利用者様に変化があったり、ご要望があれば、いつでも医師や看護師が素早く対応できる事が、ご家族の方からも安心されています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で理念について話し合い、これまでの理念を見直し、地域に開かれた地域との関係性強化を目指した理念を作り上げ、全員が共有して実践につなげる取組を行っている。また、母体の病院が1階にあり、いつでも受診できることや気軽に相談できることから、利用者、家族も安心して日々生活している。看取りについても、利用開始時に方針を説明し、納得した上で前向きに対応し、実績も4例ある。利用者の高齢化が進んでいるが、職員の温かいケアに支えられ、明るく元気に暮らしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下に掲示し、職員で共有し、実践につなげている。	職員全員で理念について話し合い、これまでの理念を見直し、地域に開かれた信頼されるホームを目指して、職員全員が理念を共有し、実践につなげる取組を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に施設の行事に参加して頂いたり、利用者様が地域の行事に参加している。	ホームで開催する敬老会には、多くの地域の人々が参加し、和やかに交流している。また、地域の自治会とは、地域の祭りや行事の参加等でつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時、自治区会区長、民生委員、公民館長、老人会会長などと話し、助言を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。出席者は区会長、老人会会長、公民館館長、地域包括支援センターなどからいろいろな情報や意見を頂き、運営に大変役立っている。	会議は、活発な意見交換や提案があり、双方向的な会議となっている。津波対策や夜間を想定した避難訓練等、多くの意見や提案があり、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に電話したり、運営推進会議などで相談して、良いサービスの向上に取り組んでいる。	市の担当者とは、運営上の課題や介護保険の情報等について、相談や指導を受ける関係を築いている。現在、スプリンクラーの設置について指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止となる具体的な行為を配布している。 出入り口にも施錠はしていない。	職員は、職員会議やミーティングで身体拘束の弊害について学び、理解を深めている。見守りを重視した取組で、階段やエレベータ近くの扉には施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会にて虐待防止について話し合いをし、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配付し、確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を説明し、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に、意見や要望を聞いたり、また、施設行事にも、積極的に家族に参加頂いている。	運営推進会議に、利用者や家族の参加依頼をしたり、家族会の開催等呼びかけているが、まだ実現していない。家族の来訪時に、意見や要望を聞く努力はしている。	利用者や家族の意見、要望を引き出す努力が必要であり、あらゆる機会をとらえて何でも言ってもらえるような雰囲気づくりの構築を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日常的に意見を出し合い、代表者や管理者に提案し、反映されている。	職員会議は、管理者の長期病気療養中のこともあって、2か月に1回程度の開催となっている。会議では、風呂場の段差の解消等の具体的な提案や意見が多く出され、運営に反映している。	ホームの運営にとって、現場の職員の意見や提案に耳を傾けることが重要であり、職員会議等の機会を利用し、更なる意見や要望を聞く機会を設けることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、代表者と管理者が職員の勤務状況などを見て、職場環境の条件整備に努めている。 職員は、希望通りの休みがとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの講師にて勉強会の機会はあるが、まだ少ないので回数を増やして行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設職員より勉強会があるが、交流の機会は質の向上につながるので行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人の性格、好みなどを家族と話し合い、本人が安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、施設に対する要望を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の意見を聞き、今、必要としていることは何かを話し合い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	雑談やお茶の時間などの時、利用者とコミュニケーションを図る機会を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告などは、ご家族の面会時、また、相談などは電話にて連絡し、利用者を支える努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が家族や知人の話をするときは、今まで住んでいた地域の話などを取り上げている。可能な限り、家族協力のもと、外出でなじみの場所にでかけて頂いている。	家族の協力を得て、自宅周辺をドライブしたり、以前勤務していた場所を訪ねるなど、なじみの関係が途切れないように支援している。知人や友人、近隣の人々の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格を見極め、気の合う者同士と話が出来よう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者、またその家族から相談があれば支援に対応出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を本人や家族から聞き取り、希望に添えるよう職員で情報を共有している。	日々の生活の中での会話や表情、なにげない動き等から、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。家族からの情報も大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と趣味や昔の話しをしたり、家族からこれまでの本人の暮らしを聞き、状況経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の状態や言葉を記録し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、職員から気づいた事や意見を出し合ってもらい、介護計画に反映させている。	モニタリングを毎月行い、本人の思いや希望、家族の意向、職員のアイデアを反映した介護計画を作成している。状況に応じて適正に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し、より良いケアにつなげる為、日々申し送りにて現状を共有し、ケアの検討・見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて、買い物等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域包括支援センターや老人会、区長など地域の方との交流や天気の良い日には近所に散歩などに出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階が病院なので、安心して適切な医療が受けられる体制です。	利用者や家族が希望する医療機関で受診ができるよう支援している。ホームの1階が母体の内科のクリニックとなっており、いつでも受診や相談ができる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階の看護師と連携をとり、必要に応じて、迅速な受診や看護が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、まず家族に情報を確認し、必要に応じて病院関係者と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の問題は、利用者が入所する時に文章にて説明し、同意を頂いている。	利用開始時に、重度化した場合の対応について、本人・家族に看取りに関する指針を作成し説明している。看取りに対応する体制ができており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は行っていない。急変の際は、看護師、医師の指示で動いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、誘導方法の確認、地域の方にも協力頂いている。 防火研修会にも参加している。	消防署の協力を得て、防災避難訓練は年1回実施している。夜間を想定した避難訓練や津波対策について、運営推進会議等で検討している。	防災避難訓練は、年2回以上必ず実施してほしい。また、夜間を想定した避難訓練や津波対策等について、地元住民の協力を得て実行できるように検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけや対応を行い、誇りやプライバシーを損なわないよう支援している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、特にトイレや入浴時に人前で恥ずかしい思いをさせないよう、声かけや言葉遣いに細心の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるよう、笑顔で接し声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気分に合わせて、希望に合った過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の服装などは、本人と一緒に選んだりし、支援している。 一部の利用者に理髪を職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものを料理に出したり、介助についての職員と会話をし、楽しんでいる。	高齢化が進み、食事の準備や後片付けを手伝う利用者はほとんどいなくなっている。食事介助を必要とする利用者が4名いる。ホームの中央に厨房があり、調理の風景やにおいを感じながら食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェック表を作り、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホームアイリス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、声かけを行い誘導している。	排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考え、水分補給、廊下歩行等の運動をし、出来るだけ繊維質の多い食材を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の要望にて週2回支援しているが、要望に合わせて入浴している。	入浴は、基本的には週2回としているが、利用者の希望や体調にあわせ入浴が楽しめるよう、柔軟に支援している。入浴を拒む人には、時間帯を変更したり、タイミングを見計らって、声かけ等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は、一人ひとり就寝時間がまちまちなので、好きなときに安眠、休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用を理解し、医師の指示通り服用できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩などで気分転換し、カラオケなどを楽しんでいる。 洗濯物をたたんだり、テーブルを拭いたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1階の駐車場、施設周辺を散歩したり、家族参加にて、フローランテ宮崎に出かけたりしている。	利用者の希望や体調に合わせて、近隣を散歩したり、年間計画に基づき、ドライブや市民の森公園、フローランテ等に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者1名がお金を所持している。あと1名は事務所に預かり、買い物などに使う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者1名は部屋に電話を引いている。1名は、夕方、家族に土、日、祝日以外に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、食堂(居間)に、施設行事の時の写真を飾ったり、大きいカレンダーを貼ったり、歌の歌詞を大きく書いて貼って合唱して楽しんでいる。	ホールは、テーブルの配置等で居心地よく過ごせるように工夫しており、採光や温湿、換気等にも配慮がなされている。壁には大きなカレンダーや利用者が作った折り紙等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者を近くの席にしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が使っていた物などを自宅より持ってきて頂き、家族の写真を飾るなど、心地よく過ごせるよう工夫している。	家族と相談しながら、利用者の好みやこだわりにも配慮した部屋づくりを支援している。テレビや家族の写真、タンス等が持ち込まれ、その人らしい居心地よい居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に分かりやすく、間違いのないよう、張り紙などで工夫している。		